



八中だより



第24号
令和6年3月25日
府中市立
府中第八中学校



〈在籍生徒数〉一学年249名、二学年261名、三学年241名
全校生徒数751名
〈学校住所・電話番号〉
〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
電話 〇四二(三六四)一八八一
★卒業式では、地域の皆さんからたくさんの祝福の言葉をいただきました。ありがとうございました。

『不安が意欲に変わるとき』(修了式の講話の一部)

校長 高汐 康浩

私は、あるSNSの『👍』マークをととても気に入っています。その投稿に共感したり、感動したりしたときに「いいね」というメッセージを表すものです。下のスタンプは、以前、小学校の校長をしていた頃に、いいねマークを模して作ったものです。その小学校の児童たちの連絡ノートなどの、いわゆる「プラス発言」にスタンプを押していました。児童たちが、「どんな発言をすれば『いいね』をもらえるか」など、仲間どうしで情報を交換していたことを思い出します。



ところで、皆さんが不安に感じるときはどのようなときでしょうか。新年度を迎え、これまで通りに楽しく学校生活を送れるだろうか？進路実現に向けた取組を順調にできるだろうか？友だちとの関係がよくなくなってしまうって以前のように関係をもどせるだろうか？などなど：私自身のことを振り返ると、自分とは何なんだろうか？生きる意味って何だ？これからどう生きていくのか？などとても難しい問題について自問自答しながら揺れていたことを思い出します。

では、大人の今の私に不安はないかということについてお話しします。実は一杯あります。もしかすると中学生の頃よりもたくさん不安を抱えているかもしれません。ある会議でのごことをお話ししました。そのときは、提案された案件に対して意見を述べようと考えていました。でも、そのことについて、私自身は詳しくないし深く考えたことがなかった。私の発言は的外してないだろうか、などと不安がありました。でも、自分の発言はきつと役に立つだろうかと考え勇気をもって発言をしました。ところが、周りの反応は全くありませんでした。しばらく

沈黙が続いたところで、ある会議の参加者が私の意見に賛同してくれました。その時点で私の不安は一瞬のうちに意欲に変化したのです。これまでの経験からいえることは、「不安の裏には意欲が隠れている」ということです。思春期という不安定な時期の中学生の皆さんにもたくさん不安があると思います。そんなときは、ぜひ、考えや思いを発信してみましよう。そうすれば、だれかが「いいね」と言ってくれたり、修正意見を言ってくれたりするはずですよ。その後には、不安は意欲へと変化をしていきます。私たち大人は、子供たちの考えなどをしっかりと受けとめ、「いいね」や「こうした方がもっといいんじゃない？」というメッセージを伝え、子供たちのやる気、意欲を高めていくことが大切だと思っています。

『本年度も教育活動への協力、ご支援いただき、ありがとうございました』

生徒の皆さんのあいさつがとてもよくできていますね。」

生徒の皆さんが、授業や部活動、学校行事、地域行事などに積極的に取り組んでいて素敵ですね。」

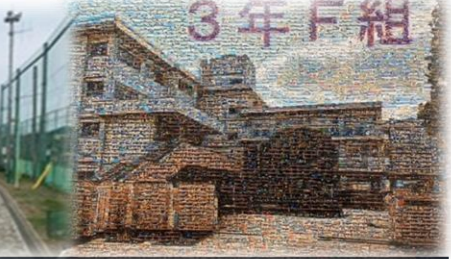
来校される多くの方々や地域の方々からいただくお言葉です。そして、いろいろな場面で、生徒の皆さんの心配りや思いやりのある気遣いを地域の皆さんが感じているというお話も伺っています。

生徒がいきいきと、前向きに取り組めたのは、保護者の皆様、地域の皆様、関係者の皆様の多大なご協力やご支援があったからこそだと思っております。来年度もますますのステップアップを目指していききたいと思っております。これまで同様、皆様としっかりと連携しながら活動を行ってまいります。引き続きよろしくお願いたします。



盛大に祝福!

創立50周年 第50回卒業式



「送ることは」

桜のつぼみもふくらみ春の訪れを感じる今日この頃となりました。本日はご卒業おめでとうございます。

今、先輩方への思い出を振り返るといつも優しく私たちの背中をおしてくださった姿がありました。先輩方は私たちの憧れでした。

私が先輩方と深く関わったのは生徒会活動です。不安と緊張でいっぱいだった私に笑顔で話しかけ、楽しい雰囲気をつくってくれました。そして先輩方全員が責任感を持ち、前向きにしっかりと仕事をこなしていく姿、学校を盛り上げていこうとする気持ちに圧倒されました。

また、先輩方は委員会活動や部活動でも自ら進んで取り組んでいました。その姿は中学生とは思えない頼もしさで私たちはとても心強かったです。そして、委員長や部長をはじめとする先輩方が教える、導いてくださり活気のある活動になりました。そのおかげで私たちは楽しく、充実した日々を送ることができました。先輩方と一緒に活動した時間は私たちの宝物です。

そして、最も先輩方の熱意を身近に感じたのは学校行事です。

春、校庭に鳴り響く歓声で熱狂のうずにおまれた体育祭。先輩方の競技にのぞむ気迫、そして熱心な姿にわたしたちは引きつけられました。特に団体競技のムカデは印象的でした。各クラスで工夫した掛け声を掛け一位を目指し工程を駆け抜きました。そして心を一気にして進んでいく姿、転んでも立ち上がり再び走り出す姿を見ました。心から応援し、たくさん感動と勇気をもらいました。

秋になると、ホール全体にいきたる歌声が多くの人々の心に響いた合唱コンクール。空間を包み込む美しい旋律。各パートが重なる絶妙なハーモニー。感情豊かな歌詞の意味が私たちの胸を打ちました。その素晴らしい合唱を耳にし、私たちも来年はあのように歌いたい、心に強く思いました。それだけではありません。日々の学校生活での、何気ない優しい言葉や、困った時さつと手を差し伸べてくださった先輩方に、いつも助けられました。今まで本当にありがとうございました。

私たちは先輩方に出会えたことに心から感謝しています。これからは私たちが、先輩方から学んだことを生かし、よりよい八中を作っていきます。

八中を卒業し新たな世界へ羽ばたいていかれる先輩方、皆様のご活躍を心から心からお祈りします。本日はご卒業誠にありがとうございます。

令和六年三月十九日
在校生代表 鈴木 愛果

「別れのことば」

大きな制服に袖を通し、この八中に入学した三年前。ここから、私たちの物語は始まりました。新しい仲間、すべてが新鮮な世界だった。

新型コロナウイルスが猛威をふるう中、やっとならぬ日帰りとなり、学校の校外学習。雪の残る山の中、みんなで必死に走った。謎解きやみんなで食べたカレーのこと、宝探しをした。今でもはつきりと覚えている。

本当に楽しかった。先輩方から教わった中、私たちが経験し、大きく成長することができた。八中に入学して一年。経験し、大きく成長することができた。フレッシュな一年の完成だ。

新たなステップを踏み出した2年生。中学校生活にも慣れ、学校の中心となって動くことが多くなった。体育祭、合唱コンクールでは、一年生の頃よりも、自信をもって取り組むことができた。みんなが楽しんだ「大縄跳び」。「深い森の中で」。「私たちが支え合い、さらに絆を深めていった。」

3月の校外学習。美しい建築、最新の技術やたくさん食べた中華街。横濱で見た海と船、計画通り進めるために、横濱の街を必死に走った。初めは少し怖かったが、計画通り進めるために、横濱の街を必死に走った。失敗してしまっただけで、私たちが、多くのことを経験し、一步一步、確実に3年生への階段を登っていった。

部活動。それは私たちにあって、かけがえのない思い出。一ページにはおさまらないほど、充実した時間だった。部活動で出会った先輩・後輩・切磋琢磨した仲間たちは、とても大切な存在となった。つらいことも仲間たちのおかげで乗り越えることができた。みんなが、ひとつの目標に向かって、諦めずに努力する大切さを学んだ。試合に勝利したときの喜び。失敗してしまっただけで、私たちが作っている。これらの経験すべてが、今の私たちが作っている。どの場面を切り取っても、その一つ一つが輝くかけがえのない思い出。心のアルバムに深く刻まれた一生の宝物だ。

かけがえのない存在。それは友達。二〇二一年の春、私たちは出会った。ともに学び、笑いあっていた日々。授業は、みんな集中して取り組んだ。授業だけでなく、何気ないおしゃべりや昼休みに思いきり校庭を走りまわったことも覚えている。あなたがいたから、学校が楽しかった。あなたがいたから、困難を乗り越えることができた。そんな八中での三年間は、二度ともどらないう間に過ぎていった。だからこそ、絶対に忘れない。さあ、この一瞬を永遠に刻もう。

永遠

私たちが共に歩んだキセキ



勉強だけでなく、大切なことをたくさん教えてくれた、先生方。上手に成長を願って、先生方たちは本気で向き合ってくれた。体育祭のムカデ競争では隣で一緒に走ってくれたことも、合唱コンクールのときに全力で応援してくれたことも、毎日「みち」でのやりとりも本当に嬉しかった。反抗的で迷惑をかけてくれたことも、常に私たちの味方であってくれた、お父さん、お母さん。やりたかったことは応援してくれた。悩んだ時は迷った時は背中を押してくれた。あの時の心のもったお弁当。優しい味。忘れないよ。つらいとき、そばにいてくれるだけで安心できた。温かい励ましの言葉は、私たちのエネルギーになる魔法の言葉だった。

先生方。私たちを支え、成長させてくれて、ありがとうございました。お父さん、お母さん。私たちの愛をありがとうございます。これからも、少しづつ自立していく私たちを見守っててください。

大切なことはぜんぶここに。大切な宝物は、すべて私たちの日々の中にあふれていた。春、体育祭を終えて向かった修学旅行。突然の雷雨の中、必死で目指した東大寺。奈良の大仏のすばらしさに、濡れた制服のことも忘れていた。清水の舞台で見た京都の絶景、体験学習で作った工芸品、外国人観光客との交流。思いつく限りの思い出も、どれも楽しかったことばかり。最高の三日間だった。

同じ場所で、同じ時間を過ごし、私たちの絆は確かなものになっていった。迎えた秋、合唱コンクール。数えきれないほど練習し、話し合いを積み重ねた。七分間の合唱は、私たちが、最終的にはどのクラスも素晴らしい合唱を創りあげることができた。三年間の合唱は、私たちの誇りだ。最終的にはどのクラスも素晴らしい合唱を創りあげることができた。特別な時間をありがとう。

「誰も消せない心のアルバム」私たちが三年間培ってきたもの。何があっても折れない信心。何があっても挑む勇気。強い絆で結ばれた友。私たちが中学校で手に入れたものは、一生の財産だ。それから私たちが、新たな道へと進む。友との絆がずっと背中を押してくれる。なりたい自分になる。勇気をもつて前を向こう。決意を胸に、光輝く未来が待っているのだから。

令和六年三月十九日
卒業生代表



- 松本健慎
- 野田啓太
- 佐藤菜太
- 山田実来
- 後藤太朗
- 藤田俊哉
- 藤田理央

Topics



◆一年生、二年生が三年生へ卒業メッセージを送りました！
メッセージには『夏の大三角形のようにキラめいてほしい』『先輩たちみたいにな3年生になれるようにがんばります！』

など、たくさんさんの心温まるメッセージが書かれています。

活躍する八中生

【敬称略】

★第三十回関東中学校選抜卓球大会★

三月十六日、十七日に栃木県宇都宮市で行われました。予選リーグでは山梨県の昭和町立押原中学校、千葉県県の松戸市立第六中学校、群馬県の高崎市立中尾中学校に勝利しリーグ第一位で決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメント一回戦では茨城県ひたちなか市立大島中学校に勝利しました。準々決勝戦では、強豪の第一シードの東京都実践学園に敗れましたが関東ベスト8という快挙を成し遂げました。



【出場選手】

- 浅倉 陽和太 和田 塔矢 嶺川 英志
- 石川 蓮真 岡部 翔之介 松平 昌大
- 杉浦 陽向 岡本 悠真

★吹奏楽部定期演奏会★

三月二十日に本校の体育館で行いました。八曲の予定された演奏に加えアンコール曲一曲を披露しました。素敵な演奏、そして、工夫のある照明と楽しいMC (Master of Ceremonies) の演奏曲紹介で会場はとても盛り上がりました。



進級する皆さんにワンポイント・アドバイス



『「やばい」ということば』

ある日、京王線の調布駅の改札を出たところで、数名の若者たちに声を掛けられました。彼らは、私と会うなり、「やばい！やばい！」と手を叩きながらうれしそうに叫んでいました。

「やばい」の意味を調べると一番目の意味として「危険または不都合な様子。状況・具合が良くないさま」という文言(もんごん)が記(しる)されています。私は、「やばい」と言われ、まずは私の顔に何か付いているのかな？何かおかしなことを言ってしまったのかな？などと考えてしまいました。でも、彼らの言った「やばい」の意味は違ったのです。久しぶりに中学校で習った先生に会えて、「とてもうれしい」という意味だったので。

『言語と思考・言語とコミュニケーション』

おいしい食べ物や「やばい」、うれしくても「やばい」、食べ物を食べても「やばい」、うれしくても「やばい」、いやな気持ちになっても「やばい」、「やばい」という言葉はとても便利☑️そうではないのです。シチュエーションによっては誤解を招く言葉だと思った方がよさそうです。少なくとも私は久しぶりに会った教え子たちから、いきなり手を叩きながら「やばい」と言われたときには、あまりいい感じがしませんでした。最近、この言葉に似た使い方をされる言葉に「えぐい」というものがあります。

私たちが思考をするときには必ず「言語」を使って考えをします。言葉の数が多くほど思考は豊かになると考えられます。そして、言葉の数が多くほど豊かなコミュニケーションをすることができると考えられます。

『感性と言語』

進学や進級という節目に、自分がどれだけ多くの言葉を使えるようになったのか振り返ってほしいと思います。例えば、きれいなものを表現するとき「やばい」の一言だけではなく、いろいろな言葉を使って豊かに表現できるようにする必要がありますか？きれいなものをきれいな言葉を使って表現できるようにすることは、感性も豊かに育っているといえると思います。